

シンポジウム

「東日本大震災から5年 復興公営住宅における集住のかたち」 研究者と実務者のクロストーク 2

日時——3月15日（火）13:30～17:00

会場——建築会館3階会議室（東京都港区芝5-26-20）

震災という未曾有の出来事を経験したからこそ生まれる理想的な集住のかたちがある。阪神淡路大震災ではコレクティブハウジングが生まれ、東日本大震災でもこれまで実現困難であった計画が生まれてきている。本シンポジウムでは、これまでの復興公営住宅の課題を検証しながら、これからのかたちについて議論する。

【全体 13:30～17:00】（以下、敬称略）

【主旨説明 13:30～13:40】 榑市浦ハウジング&プランニング 川崎直宏

【第一部 東日本大震災復興公営住宅における新しい取り組み】（1人20分） 13:40～15:00

- ・ 榑アルセッド建築研究所（関邦紀）
～新潟県中越沖地震を踏まえた東日本大震災復興公営住宅の試み～
- ・ 榑山設計工房（照沼博志）
～女川町における復興公営住宅 運動公園復興公営住宅を事例として～
- ・ 宥都市建築設計集団（手島浩之）
～バリアフリーとコミュニティを考えた木造災害公営住宅
岩沼市玉浦西B-1地区と石巻市北上町にっこり団地計画を事例として～
- ・ 榑市浦ハウジング&プランニング（奥茂謙仁）
～地域性と地場産業の活用 田野畑地区を事例として

【第二部】研究者と実務者のクロストーク 15:10～17:00

研究者の立場から：（1人20分）

小野田泰明（東北大学）：復興公営住宅の計画

檜谷美恵子（京都府立大学）：阪神淡路大震災における計画

実務者の立場から：関邦紀、照沼博志、手島浩之、奥茂謙仁

司会 鈴木雅之（千葉大学）

コメンテーター 高井宏之（名城大学）

全体司会 鈴木 雅之（千葉大学）

副司会・記録 山口健太郎（近畿大学）